## 平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

車	事務事業名		英語教育推進事業	会計	一般	会計	事業No.	675	施策順No.	22-008
7			<del>火</del>	事業種別	政策•	その他	予算科	目	10-3-2-10-15	
ı	攺	策	3 地育力によるこころ豊かな人づくり				課等	名	学校教	育課
ħ	施	策	22 義務教育の充実	事業期間	開始	1	終了			

## 1 事業の目的

		市内小中学校児童生徒							A:十分達成 した B:どちらか といえば達
	対象	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	成した	
事業の目	誰、何に	中学校生徒数(9校)			3294	3151	3091	3100	C:どちらか といえばで きてない D:ほとんど
的は「対 象」を「意		小学校児童数(19校)			6345	6313	6261	6187	達成できて いない
図」した状態にすることです		中学生には英話による外国人とのコミュニケーション能力の向上 小学生には、国際感覚と、外国語の必要性を認識する動機づくり							
	意図 対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	22年度 実績	23年度 目標	目標達成度
	対象を どう変 えるか	英語指導助手の中学校英語授業時数の割合			15	20	20	20	A
		英語指導助手の小学校外国語活動(5·6年)の1クラス当りの年間参加 時数			10	20	20	25	
22年度の日標 に対する振り返 【政策的事業の	支り	小中学校共に目標時間数を達成できた					-	-	

# 2 手段(具体的な取り組み内容)

- | 中国ソウ・スプ配のプロセン | 1 児童生徒に生きた英語を学ばせることでヒアリング・スピーキングの力をつける | 2 外国人との交流機会による国際感覚の育成 | 3 小中学校に英語指導助手を配置し、小学校では外国語活動を、中学校では英語教育を推進

# 事業の制度 (仕組み)説明

	事業内容	名称	活動量·単位
22年度 事業内容	1 中学校に英語指導助手6名を配置 2 小学校は月2回程度英語指導助手2名を派遣して外国語活動時間に担任教諭とT. Tを実施 (1)外国語活動用教材の研究と充実を図り平成23年度から完全実施となる小学校外国語活動の 円滑なる移行を目指して指導の定着を図る 3 英語指導助手による授業展開で児童生徒の英語力についての効果を検証	英語指導助手配置数(小・中)	88
23年度 実施計画	1 中学校に英語指導助手6名を配置 2 小学校は月2回程度英語指導助手2名を派遣して外国語活動時間に担任教諭とT. Tを実施 (1)外国語活動用教材の研究と充実を図り平成23年度から完全実施となる小学校外国語活動の 円滑なる移行を目指して指導の定着を図る 3 英語指導助手による授業展開で児童生徒の英語力についての効果を検証	英語指導助手配置数(小・中)	8名

## 3 事業コスト

		A-11					
	(千円) 22年度予算額			22年度決算額	23年度予算額		(県)緊急雇用創出事業補助金 4,651千円(補助率10/10)
	性	国庫支出金					(そ)財産収入 786千円
事業費	定	県支出金	5, 267	4, 651		特定財	
	財源	起債				源内訳、補	
		その他	3, 120	786		足事項	
~	— f	<b>段財源</b>	29, 542	28, 857	33, 242		
		計 (A)	37, 929	34, 294	33, 242		
	正規	規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間 人件費計 (B)						
				0			
		トータルコスト A	+B	34, 294			

# 4 事業に対する市民や議会の意見

児童生徒からは、英語指導助手による英語の授業が楽しいとの感想がある 小学校からの英語必修については、導入推進論とまず国語を大事にと賛否両論がある

## 5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革 の取組区分	【記載不要】	具体的な 取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比 べての効果額 (千円)	【記載不要】	効果額説明(算 出根拠)、特殊要 因	【政策的事業のため記載不要】

機力のよう    「日本の主なのという。   17 によって生きた語句に後することで、発音等の疾患力が向上する。さらに話ぞうと努力することで、コミュニケーション能力や国際感    18 が優され、教育の光彩につながっている。   19 クスあたりの疾患指導助手の中間授業特数について成果検証を行い、今後の方針を検討する必要がある。   19 クスあたりの疾患指導助手の中間授業特数について成果検証を行い、今後の方針を検討する必要がある。   19 クスあたりの疾患指導助手の受入方法や日上の資質向上策の展展、教徴員の研修、各校の実践事例の研究によって疾患教育変素のための周辺を係を行った。   20 本書書 大きな工夫と、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫とは、大きな工夫という。   4 本語の様	(+H)	98 -	D D 40	<b>4</b> 70 /-	五/404五)				
は 2 日本の 2	10 削期4年	间(	リ収組			話に関わ朝1 サヘー した31 デー明	/ 許十		
25 表表 1 表 2 表 2 表 2 表 2 表 2 表 2 表 2 表 2 表		位施领		力を	を高めるとともに	:国際感覚を身につける。		標又はムトス 指標	
17/2人のアンターの学の表情を導動すり、「大変を変更している。	この事務事業は施策の目的	り返り					英語力が	向上する。さらん	<b>こ話そうと努力することで、コミュニケーション能力や国際</b> 愿
整備を行った。  整備を行った。  整備を行った。  整備を行った。  整備を行った。  整備を行った。  整備を行った。  ※ 特別においまるにより、 の表別においます。  「ためにどの  「ためにとの  「ためにとの  「ためにとの  「ためにおいます。  「ないます。  「ないます。 「ないます。  「ないまする。  「ないまするないます。  「ないまするないます。  「ないまするな	達成にといる うに貢献しまし たか			10	ラスあたりの英	語指導助手の年間授業時数にへ	いて成果	検証を行い、今	後の方針を検討する必要がある。
及語作業助手及 学校自の答称。連携をどのようにするを検討する必要がある。また、小学校外国語店動が開始されたことに 立て小中学校間の接続・連携をどのようにするかを検討する必要がある。  英語作業助手を直接雇用方式とすることで経費の削減を図った。  英語作業助手を直接雇用方式とすることで経費の削減を図った。  英語作業助手を直接雇用方式とすることで経費の削減を図った。  英語作業助手を直接雇用方式とすることで経費の削減を図った。  一定レベル以上の英語指導助手を推用するため、件費の削減は難しい。成果を考えるたらは英語指導助手の増資が望ましいが、コープレ・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	この事務事業 の成果を向上 させるためにど	り返		整值	帯を行った。				
4年間の振り返り  ストと削減す  ために2の  たきな工夫をし  できょしたか  後期に向けた課題  本年間の張り返り  4年間の張り返り  4年間の張り返り  特になし。  後期に向けた課題  特になし。  本年のような主義とし  の最りの表してきました。  後期に向けた課題  特になし。  本年のような主義とし  のような発酵を表した。  特になし。  特になし。  特になし。  をはまなの発酵を表した。  おいてのような発酵を表した。  おいてのような発酵を表した。  おいてのような発酵を表した。  おいてもました。  かいていてました。  のような発酵を表した。  おいてました。  おいてました。  のような発酵を表した。  おいてました。  のような発酵を表した。  おいてました。  のような発酵を表した。  おいてました。  のような発酵を表した。  おいてました。  かいたしてきました。  のような発酵を表した。  おいてました。  のような発酵を表した。  おいてもしましたか  かいたしてきました。  のはしましたか  のはいましたが  のが、  ないていました。  かいたしてきました。  のはいましたが  のが、  ないていました。  のまり返り  本種が必ず  ないました。  おいてもした。  かいたしてきました。  のはいたました。  のはいたましたが  のが、  ないていました。  のはいたました。  のはいたました。  ないました。  ないていました。  ないました。	のような工夫を してきましたか	後其		よっ	で小中学校間	]の接続・連携をどのようにするか	を検討する	る必要がある。	要がある。また、小学校外国語活動が開始されたことに
できましたか 後期に向けた課題 ストミレ昇するため、係重に検討する必要がある。事業費は英語指導助手の採用・配置・日常生活上の世話にかかる費用等であり、必要を経験の経費であり削減はできない。 事業費は英語指導助手の採用・配置・日常生活上の世話にかかる費用等であり、必要を書き担の優別 直接の受益者は児童生徒・保護者であり、教育の一環であるから受益者負担は馴染まない。また本事業は市の責務である。	コストを削減す るためにどの トラなことも	り返							
## (本 ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	よっな工夫をし てきましたか			スト要量	も上昇するため最低限の経費	り、慎重に検討する必要がある。 であり削減はできない。	事業費は多	英語指導助手の	採用・配置・日常生活上の世話にかかる費用等であり、必
等になし。    特になし。   特になし。   特になし。   特になし。   特になし。   特になし。   特になし。   特になし。   である複数を表現を表現している。   である複数を表している。   である複数を表している。   であるが、	受益者負担の 程度、市が関			直接	<b>妥の受益者は</b> り	兄童生徒・保護者であり、教育の-	一環である	から受益者負担	<b>担は馴染まない。また本事業は市の責務である。</b>
##な主体の役割の   4年間 の振り によるな変動を果 によしたか。	与する程度は 適切でしたか			特品	こなし。				
様になし。 様はどのような働き かしてきました。 か、又は、配慮してき にしたか)	発揮状況 ①その主体は誰 どのような役割を たしましたか。	で、 :果	の振り	特は	こなし。				
指導助手の来校を楽しみにする児童生徒も多く、国際感覚やコミュニケーション能力を養うために有効であったと考えられる。 4年間の振り返り  全体を通じて  引き続き英語指導助手や教員の資質向上、授業研究、小学校中学校間の接続と連携についての検討を進め、より質の高い学習を行う必要がある。	発揮するために、 政はどのような優 かけをしてきまし	、行 動き た	向けた						
りき続き央語指導助手や教員の貸貨回上、授業研究、小字校甲字校間の接続と連携についての検討を進め、より貨の高い字省を行う必要がある。 後期に向	全体を诵じて			指導	尊助手の来校?	と楽しみにする児童生徒も多く、[	国際感覚や	やコミュニケーシ	ョン能力を養うために有効であったと考えられる。
7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認		けた	課題	う必	要がある。		开究、小学	校中学校間の	<b>妾続と連携についての検討を進め、より質の高い学習を</b> 行

# 7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか ない 対象や意図を修正する必要はありますか ない 成果指標や指標値を修正する必要はありますか ない

# 8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

	□ 完了 □ 拡大	□縮小	□別事業に統合	□ 休止廃止	▼ 現状維持	目的見直し	■事業のやり方改善	
--	-----------	-----	---------	--------	--------	-------	-----------	--